

文部科学大臣奨励賞(団体)

自分たちがつくったお米を商品化してお客さんに売り出そう

長野県東御市立和小学校5年梅組

1 特徴

5年生がお米作りをすること自体は珍しいことではないが、今回の児童の実践は、自分たちが作ったお米を学区内のスーパーマーケットで販売した点に特徴がある。

学区内の農家の協力で田んぼを借り、田植えから稲刈りまでを子どもたちの手で行った。秋にはお米の名前も自分たちで話し合っ「元気のもと和米」と決め、お米を詰めるパッケージのデザインは、コンクール形式で児童のデザインを採用した。児童による試食作戦も行き、お店での販売も盛況で、用意したお米を完売できた。そういった体験活動と並行して、児童は、お米をテーマにした調べ学習を1学期から進めていた。コンテンツは、体験学習の様子と調べ学習の結果をまとめたものである。一人ひとりの児童は、その両方のコンテンツの制作に関わっている。

2 内容

①調べ学習コーナー

- ア)お米の種類について調べたよ
- イ)今と昔の生活について調べたよ
- ウ)農業人口の変化について調べたよ
- エ)日本のお米料理について調べたよ
- オ)いろいろな農法について調べたよ
- カ)稲作の歴史について調べたよ

②体験学習コーナー

- ア)田植えをしたよ
- イ)稲刈りをしたよ
- エ)収穫祭をしたよ
- オ)お米の名前とパッケージのデザインを決めたよ
- カ)お店でお客さんにお米を売ったよ

3 実践結果・内容

①学習内容

- 4月 お米をテーマにした調べ学習を始めよう。
- 5月 自分たちのテーマについて調べ学習をしよう。
- 6月 田植えをしよう。稲の生長を観察しよう。
- 7月～9月 調べ学習を進めよう。稲の生長を観察しよう。



- 10月 稲刈りをしよう。収穫祭をしよう。
- 11月 お米の名前を決めよう。パッケージをデザインしよう。スーパーマーケットでお米を販売しよう。
- 12月～1月 調べ学習と体験学習についてコンテンツを作ろう。
- 3月 参観日で発表しよう。

②結果

農家の協力を得られたことで、大きな田んぼで本格的な稲作を体験できた。そして、専門的なサポートがあったので、お店で堂々と売れるようなおいしいお米をたくさん収穫できた。児童も実際に自分たちが収穫したお米を食べているので、そのおいしさに自信をもち、その気持ちが販売体験に向かう学習活動への意欲とつながった。販売・流通まで関わったことにより、生産者の気持ちを実感できると共に、実際のお客の目の前で販売することの難しさと喜びも味わうことができた。